

人権のつどい 2026

「人権教育とはどうあるべきか」考えてみませんか

いろんな人が一緒にいることで、人権感覚を身につける



弱者と烙印を押され、「いじめてもいい者」として正当化されてきたのは、たとえば在日外国人であり、たとえば障害者であり、また、たとえば被差別部落の人たちでした。

そういう人たちがどんな思いをして生きてきたかにあらためて耳を傾け、この人たちをいじめない社会をどうつくっていけるかを考えることこそが、学校からいじめをなくし、いじめによって自死していく子どもをなくす道に通じるとぼくは考えています。

「いじめは昔からあった。しかし、最近は様相が変わって陰湿になった」という人がいますが、ぼくはそう思いません。昔から陰湿ないじめはあったのです。そのことに気がつかなかっただけです。より「身近」なところで起きるようになって気がついたというだけです

2003年からコロナ期を除き毎年開催をしてきました「人権のつどい」も、21回目となりました。今回は下記のとおり、子どものいじめや自死をなくすためにどうしたらいいか、元小児科医の山田真さんからおはなしをお聞きいただきます。ぜひ、多くのみなさまのご来場をお待ちしております

**山田真さん
プロフィール**
「1941年岐阜県生まれ。1967年東京大学医学部を卒業。以後、東京都八王子市の八王子中央診療所に勤務、町の小児科医として半世紀を過ごしてきた。その後、八王子中央診療所所長。同診療所理事長。現在はフリー。自身も障害をもつ子どもの父親であり、能力主義や優生思想に対して積極的に反対の意見表明を続けている。「障害児を普通学校へ・全国連絡会」の運動に長くかかわる。「障害児・者の高校進学を実現する連絡協議会」「ちいさい・おおきい・よわい・つよい」編集協力人。「子どもたちを放射能から守る全国ネットワーク」代表。

著書：『聞う小児科医——ワハハ先生の青春』、『かぜをひいたら読む本』『アレルギ一体質で読む本』『太っちょ・やせっぽちの読む本』（じぶんのからだシリーズ）（以上小社刊）
『子育て—みんな好きなようにやればいい』（太郎次郎社エディタス）、『育児児典』（毛利子来氏との共著、岩波書店）など。

記

講 師：山田 真 氏（元小児科医）

日 時：2026年2月6日（金）

午後6時10分開場 午後6時30分開会

場 所：深川江戸資料館 小劇場（江東区白河1-3-28）

内 容：学校からいじめをなくし、いじめによって自死していく子どもをなくすため、人権教育とはどうあるべきかを考える。

参加費：1,000円

***手話通訳有、車椅子席3席（事前申し込み要）**

主 催：2026人権のつどい実行委員会

**後 援：江東区・江戸川区・江東区教育委員会・江戸川区教育委員会
【実行委員会参加団体】**

部落解放江東共闘会議・NPO法人共に結・部落解放同盟江東支部

お問い合わせ：電話 03-6802-9317・FAX 03-6802-9318



新大橋駅・東京メトロ半蔵門線「清洲橋」駅より徒歩約3分

バス利用の場合は

1 東京メトロ半蔵門線「清洲橋」駅下車徒歩約1分

2 都営バス26系統「清洲橋」駅下車徒歩約1分

地下鉄

・各駅間、直行距離 2.0kmほど
・車での移動時間がかかるため、駐車のバスをご利用ください。